

二〇二五年八月八日

漆黒の湖上に展く大花火  
澄子  
水口を落つる田水の音涼し  
えいじ

二〇二五年八月七日

骨切りの音小気味よき鰐料理  
千鶴  
ゆつくりと川面遡上す秋の雲  
むべ

二〇二五年八月六日

と見る間に空は暗転大夕立  
むべ  
平和誓ふ子の声清し原爆忌  
やよい  
むくり屋根稜線めきて月涼し  
むべ

二〇二五年八月五日

広前の土俵ひび割れせる早  
康子

二〇二五年八月四日

孫と手をつなぎハミング避暑散歩  
せいじ

二〇二五年八月三日

日照雨きて息吹きかへす夏野かな  
澄子  
溪谷の闇の間遠に河鹿笛  
あひる  
照り返す夏日の屋根に鬼瓦  
ぽんこ

二〇二五年八月二日

貝殻の石鹼皿や避暑の宿  
むべ  
水占旱りてゐたり寺炎暑  
なつき

毎日句会みのる選・二〇二五年八月一〇日